

クリスマスについては、いろんな話がありますが、今日は、シリアというイスラエルの北隣にある国に伝わるお話をしたいと思います。

実は、クリスマスツリーに飾る、金や銀の糸は、この伝説から生まれたものだと言われています。

ベツレヘムに新しい王様が誕生した、という知らせに、ヘロデ王はたいへん不安を覚えました。

「ユダヤの王は、この私だ。ゆるせない。」「打つ手は、早い方がよかろう。」

王は、全軍に命令を出しました。

「ベツレヘムとその付近の地方とにいる、二歳以下の男の子を、すべて殺せ。」

聖書をみると、そのときの悲惨なできごとは、旧約聖書のエレミヤの預言の成就として記されています。

「ラマで声が聞こえた。激しく嘆き悲しむ声だ。

ラケルは子供たちのことで泣き、慰めてもらおうともしない、

子供たちがもういないから。」（マタイ 2：18）

ところが、この歴史的な大惨劇がくりひろげられる直前に、天の使いが夢でヨセフに現われ、エジプトに逃げるよう告げたのでした。ヨセフとマリアは、すぐに荷物をまとめて、夜のあいだにベツレヘムを後にしました。

伝説は、エジプトに向かって旅する三人の様子を伝えています。

荒野のまんなかで、とっぷりと日が暮れてしまいました。

やっとのことで、小さなほら穴を見つけたヨセフは、赤ちゃんのイエスさまを抱いたマリアをいたわりながら、その中に入り、一夜を明かすことにしました。

ところで、ほら穴の入り口に、一匹のくもがいました。

くもは思いました。

「砂漠の夜は、とても冷え込む。このままでは、赤ちゃんのイエスさまが風邪を引いて死んでしまう。何とかしなくっちゃ」

くもは、大急ぎで、ほら穴の入り口に巣をかけ始めました。いっしょうけんめいに、巣をかけました。目いっぱい大きな巣をかけました。入り口全体をふさぐように、大きな巣を張りめぐらせました。何時間もがんばって、やがて、みごとな巣ができあがりました。

くもは言いました。

「これでよしと。こうしておけば、冷たい風は、ほら穴のなかに入れない。もうだいじょうぶ。」

くもの巣なんかで、冷たい風を防げるはずがありません。

でも、くもは、イエス様を守るために、自分としてできる、精いっぱいのことをしたのです。

真夜中近くのことでした。

静寂を破って、突然、遠くからひづめの音が聞こえてくるではありませんか。

「パカパカ、ザクザク、パカパカ、ザクザク」

その音にヨセフとマリアは目を覚ましました。

駆け足で近づいてくる馬の音は、ますます大きくなってきました。

「ヘロデの軍隊にちがいない」「まあ、どうしましょう」

マリアは、すやすやと眠っているイエス様をみつめました。そして、そっと毛布をかけました。

もしも、あかちゃんのイエス様が泣き声をあげたら……。ふたりは息を殺して、耳をすませました。

「おい、あそこにほら穴が見えるぞ。おまえ、あのほら穴を調べてこい。」

「ああ、もうだめだ。これで見つかれば、私たちは三人とも殺されてしまう。」

ヨセフとマリアは、しっかり抱き合い、心の中で、必死の祈りをささげました。

「神様、助けてください。」

「ザク、ザク、ザク、ザク」

兵隊のくつの音が近づいてきました。そして、ほら穴の入り口でピタリ、止まりました。

「神様助けてください。」

短い時間でしたが、ヨセフとマリアには、こおりついた永遠のように感じられました。

二秒、五秒、十秒。兵隊は入り口に立ったままです。入ってくる様子はありません。

そのとき、遠くから声が聞こえました。

「おい、どうしたんだ。なぜ、ほら穴の中に入って調べない。」

「隊長。入り口に、大きなくもの巣があります。もし、このなかに連中が入っているとしたら、くもの巣は破れているはずです。このなかにはいません」

「うむ。それもそうだ。よし、そこにはいない。別の方を探してみよう。」

パカパカ、ザクザク、パカパカ、ザクザク。ひづめの音をひびかせて、やがて一隊は荒野のかなたに消えていきました。

ほら穴の入り口には、夜露をいっぱいにあびたくもの巣が、やわらかな月光に照らしだされて、ピカピカ、キラキラ、ピカピカ、キラキラと輝いていました。

クリスマスツリーにかける、金や銀の糸は、実は、このときのくもの巣を表しているのです。

こどもの讃美歌を思い出しませんか？「愛のわざは、小さくても、よろこびなさる 神様」

「くもの巣で、風をさえぎるなんて、バカだ。何の役にも立ちはしない。無駄だ。」

大きい人はそう思います。強い人はそういいます。しかし、神様は、小さい人や弱い人の精いっぱい
の愛の働きを、喜んで受け入れてくださいます。

愛には、無駄が伴います。愛は喜んで犠牲を払います。犠牲やムダを伴わない愛などありません。

「やってもムダだ。どうせ同じことだ。やるだけ損だ。」

愛は計算を超えます。愛は不可能に挑戦します。とうてい勝ち目のない戦いにいどみます。愛は、時
として常識を超え、理性の上に立ちます。そして、その結果、だれもが予想だにしなかったことを実現
します。愛は、最高の動機です。愛こそ、創造の力です。

今日は、イエス様の誕生の物語のなかで、イスラエルの北側にあるシリアに伝わる、くもの作った糸が
イエス様たちを守ったという伝説をお話ししました。